

ミルコミ

Macromill Communication

Vol.165

～こんな時、みんなどうしてる？～

働き方をアップデートしよう！



～こんな時、みんなどうしてる？～

働き方をアップデートしよう！

みんなの
推し♡コレクション
大集合新 Mission・Vision 策定の
～マクロミルだからこそできること～

裏側

読者の声をご紹介

発行後は、毎回読者アンケートを行っています。前号（vol.164）の評価は、「とても面白かった」「やや面白かった」の合計が97%でした。皆さんの感想を一部ご紹介します。



Web版も公開中です。
本誌を含めて直近7号分を
ご覧いただけます。

Q.面白かった・良かった記事を3つまでお選びください。

1位

こぼれりのリモートワークグッズをご紹介！
Desk Tour 2021

最近入社し、初のリモートワークを開始したばかりだったので、おすすめグッズは大変参考になりました。商品名も書いてあり、真似しやすくありがたかったです。

自分と同じ悩みを抱えている方から、
自宅環境の整備についてヒントを
いただきました。

リモートワークグッズを積極的に調べる方では
なかったで、今回の記事で「なるほど！こんな
ものがあるんだ！」と発見がありました。自分でも
色々調べてみようという気持ちになりました。



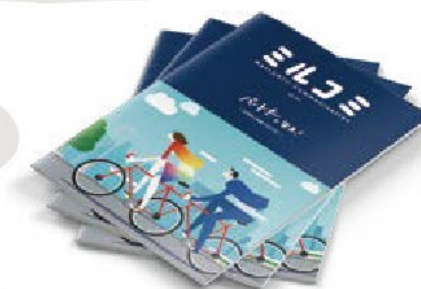
2位

パートナーになる！
～お客様と前進するために～

パートナーや伴走者の定義が人により異なっていると
感じていたので、改めて経営陣の考えを知ることが
でき、とても刺激になりました。

他部署の取り組みが紹介されていたので、
自部署で取り組むためのヒントにしたい
と思います。

お客様側の気持ちやご意見も知れたので
今後の業務に活かせそうです。



3位

マクロミル・サウスイーストアジア設立から2年

海外駐在のリアル

海外駐在に理想を描いていたので、実際に体験
された柴原さんの辛さや葛藤、それを乗り越えた
話などが興味深かったです。いつか海外駐在
に挑戦したいと思いました。

こんなに厳しい環境で戦っている方が
いるのだと思うと、自分ももっと頑張
らないと、と勇気づけられました。

アジアNo.1という目標を掲げる中、海外
現地の状況や課題を知れ、日本からも何か貢
献できないかと考えられたことがとても良かっ
たです。



編集部から

アンケートにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。最近、新入社員の方が嬉しい感想を寄せてくださることも多いです。一部ご紹介すると、「各部署の仕事内容を知れ、今後のキャリアを考える上でも有効な情報となっています」「なかなか見えづらい他部署の取り組みが理解でき、まだ研修期間中ではありますがこれから一員として働くことが一層楽しみになりました」などの声をいただきました。今後も、「ミルコミ」が会社理解を深めるツールの一つとして活用されるよう、皆さんの意見を反映した誌面づくりをしていきます。

COTENTS

お悩みテーマ1

☑ コミュニケーション

- 01 部内のコミュニケーションが取りづらい →P6へ
- 02 入社直後からリモートワーク。コミュニケーションが難しい →P7へ
- 03 他部署との交流機会が減った →P8へ
- 04 リモートワークでも業務を円滑に進めたい →P9へ
- 05 メンバーや後輩をフォローしづらい →P10へ

お悩みテーマ3

☑ モチベーション・集中力の維持

- 09 ONとOFFの切り替えが難しい →P16へ
- 10 仕事に集中しづらい →P18へ
- 11 浮いた通勤時間を有効活用できていない →P19へ

お悩みテーマ2

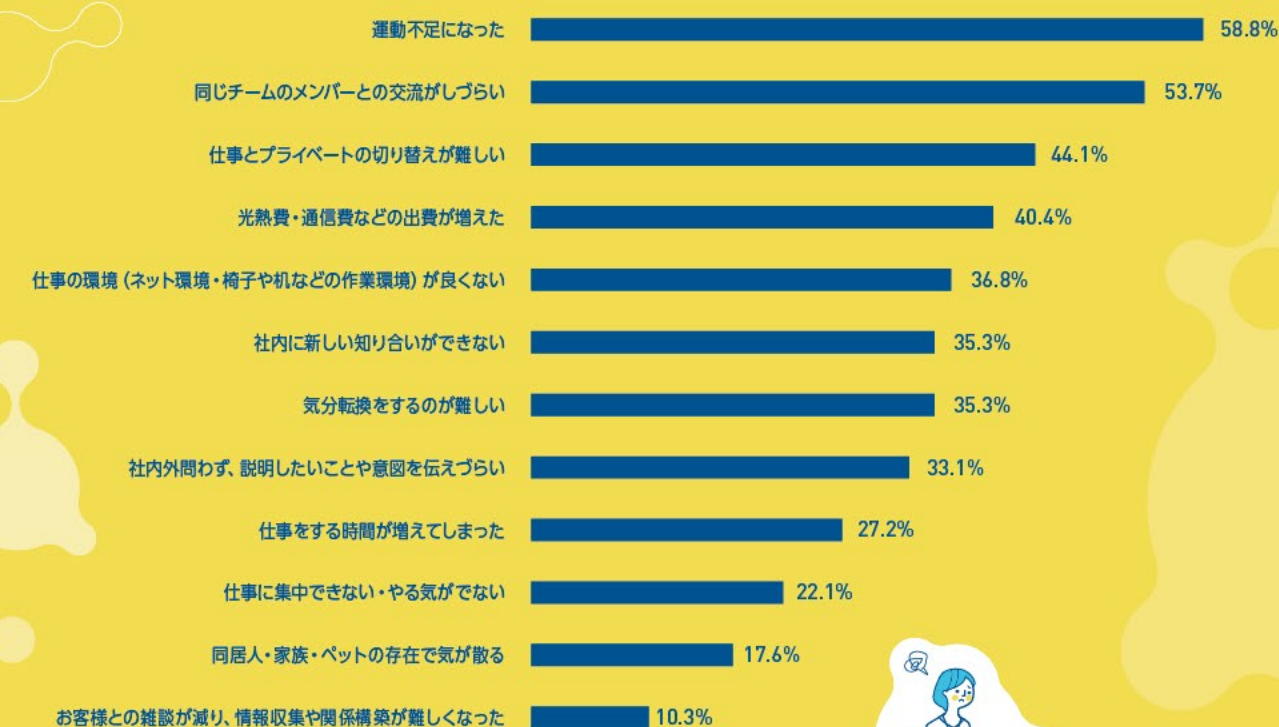
☑ 運動不足

- 06 運動時間を確保できない →P12へ
- 07 仕事をしながら運動もしたい →P13へ
- 08 続かない →P13へ

- ＼他にも知りたい！／みんなの工夫 →P10へ
- 2部署に聞いてみた！
リモートワークと出社はどう使い分けるべき？ →P14へ
- ＼息抜きの方法、教えてください！／
執行役員の皆さんのON/OFF切り替え →P17へ

OUR DATA

あなたがリモートワークをするとき、課題に感じたり、悩んだりすることはありますか？(複数回答) n=136



～こんな時、みんなどうしてる？～

働き方をアップデートしよう！



予想だにしなかった新型コロナウイルス感染症の流行により、働き方が大きく変わって約1年半。マクロミルでも全社の約9割がリモートワークを活用しているようです。もうすっかり慣れたよ、という方もいれば、環境の変化からしばらくたって、改めて仕事の進め方や働き方に悩みを抱えている方も多いと思います。

そこでミルコミ編集部では、社員の皆さんにリモートワーク時のお悩みを聞いてみました。その結果から、皆さんが特に悩んでいる項目を、「コミュニケーション」「運動不足」「モチベーション・集中力の維持」の3つに分類。今号の特集ではそのお悩みに対して、皆さんが行っている工夫を紹介していきます。

働き方は十人十色。本特集を読んで、今の自分にとって最適な方法を探ってみませんか？

02

入社直後からリモートワーク。 コミュニケーションが難しい

新入社員の方のお悩みとして多いのが、こちらではないでしょうか。リモートワーク環境でも前向きに
周囲とつながりを作っている方、そして多くの新入社員を受け入れる部署の取り組みをご紹介します。



積極的に働きかけ、つながりを作る

第2事業本部
武弓竜一さん

私は昨年末の入社以来、ほぼリモートワークで働いています。前職では週に数回出社していたので、働き方と環境の変化が同時に起こり、入社当初は辛かったですね。リモートワークだと雑談がしづらく、皆さんの人となりが分からない中で業務を進めるのは想像以上に大変でした。また、小さな不明点でも解決に時間がかかり、作業が滞ったこともあります。「何とかしてこの状況を変えなければ」と思い、まずはチームメンバーとの「横のつながり」を積極的に作るようにしました。マネジャーに相談して、Teamsに雑談チャンネルを作ったり、ユニット内で定期的にオンラインランチ会を開催してもらったりしたんです。さらに、ミーティング時は少しでも私のことを知ってもらえるよう、率先して画面をONにし、顔を見せることも心掛けました。

また、リモートワークでは家庭との両立も新たな悩みでした。保育園から帰宅した子どもの世話をするため、夕方以降は一時的に仕事から離れる時間があります。マイクロミルでの働き方を模索するため、同じようにお子さんを持つ方と情報交換をしたり、Remoカフェ[※]で育児中の社員と交流したりしました。

まだ試行錯誤の最中ではありますが、入社当初と比べると気持ちは大分楽になりましたね。入社以来、相談をしたらすぐに機会を作ってくれるマネジャーをはじめ、いつもフォローをしてくれる周囲の皆さんには本当に感謝しています。これから入社をしていく方には、今度は私が積極的に声掛けをしていきたいですし、気軽に話せるコ

同じ悩みを持つ人へメッセージ

とにかく自分から周囲に声を掛けて。

悩みはどんどん言葉にしよう！

リモートワークでは、閉じこもらずに、積極的に声掛けをしていく姿勢が大切だと思います。社内で話せる人を増やし、悩みや分からないことを
どんどん言葉にして伝えることで、きっと楽になるはず。



コミュニティを作っていけたらと思っています。
※広報が企画する、Web会議システム『Remo』を活用したオンラインランチ会。

NEW!
UPDATE

武弓さんのアップデートポイント



自分から行動を起こす

部内で「横のつながり」を作るため、入社間もなく
でも自分から行動できることを探して実行。
自身のことを知ってもらう場の一つとして作った
Teamsの雑談チャンネルでは、積極的に投稿した



アンテナを張る

知りたい情報が得られそうな場には積極的に参加！
Remoカフェでは、育児中の社員が集まるテーブルで、
仕事と家庭の両立について情報交換



お悩みテーマ1

コミュニケーション

働き方の変化に伴い、コミュニケーションのあり方は大きく変わりました。

非言語情報が減少するオンライン環境で、悩んだり、

やりづらさを感じたりすることもあるかもしれません。

それぞれのお悩みと共に、皆さんの工夫や取り組みを見ていきましょう。

01

部内のコミュニケーションが取りづらい

一番身近な存在であり、コミュニケーション頻度も高いチーム内だからこそ、
オンラインであっても気持ちよく、業務が円滑に進むやり取りをしたいものです。



お互いニックネームで 呼び合う

ライフサイエンス事業本部
花岡み奈美さん

私はまだ入社して5カ月ですが、チームメンバーの皆さんのことを積極的にニックネームで呼ぶようにしています。更に私自身にも、皆さんに相談をして、気兼ねなく呼べるニックネーム（花さん）を付けてもらいました。また、趣味などをWeb社内報「NOW」のスタッフプロフィールで事前にリサーチし、会話のネタにすることも意識しています。出社時はもちろん、オンライン会議やチャット上でもこうした行動をしてきました。

チーム内でお互いに親しみを感じ、「自分は受け入れられている」という安心感を持てると、ストレスのないコミュニケーションにつながるはず。高い成果を創出するためにも、しっかりと土台作りを大切にしていきたいと思っています。

私の部署は、オフィスでしか行えない業務があるためローテーションで出社していますが、社会情勢や他メンバーの状況を考慮した上で、自分の出社日以外にも時々出社するようにしています。出社時に大切にしていることは、挨拶はもちろん、相手の目を見て感謝の気持ちを言葉にしたり、仕事以外の雑談をしたりすること。対面で話すと、表情や雰囲気から相手の忙しさや、持っている業務量を把握しやすいです。ちょっとした体調の変化にも早めに気付くことができます。日頃はオンラインでこまめなコミュニケーションを意識しつつ、オンラインだと得づらい情報は、顔を合わせることでできる出社日を有効活用してキャッチしていきたいです。



気軽に話せる場をつくる

デジタルテクノロジーズ事業本部
伊藤結里さん



私のグループでは、共同作業やちょっとした質問の場として、仮想オフィスツール[※]を活用しています。リモートワークで雑談が激減したため、ツールの中に「雑談枠」と称した入室自由なスペースを作りました。他愛もない雑談で新しく入社された方との交流が深まりましたし、「雑談スペースにいる」話しかけてOKを共通認識にしたことで、質問しづらい、話しかけづらいといった状況を解消できたように思います。

引き続き気軽な会話ができ、各自がフレキシブルに交流できる場として活用していきたいです。

※リモートワークであっても、同じオフィスにいるかのようなコミュニケーションが取れるクラウドツール。

04 リモートワークでも業務を円滑に進めたい

オンラインだと意図が伝わりづらいことや、時には認識の齟齬が起きることも。会えない分、「ちょっとした気遣い」を取り入れて、スムーズに業務を進めたいですね。



離れているからこそ、相手を思いやる

デジタルテクノロジー事業本部
 菊地京平さん

営業は働き方の変化による影響が比較的小さい職種ですが、社内にはこの1年半で仕事の進め方が大きく変わった部署もあります。そうした相手の状況を考え、「ツールを使い分けて、素早く丁寧に情報共有すること」を意識するようになりました。案件やお客様に関する情報はSalesforceでやり取りをするルールですが、私はTeamsもフル活用しています。お客様ごとにTeamsでグループを作り、ご発注をいただいたら、まずはTeamsで簡単に概要を共有し、その後Salesforceで詳細を残すといった使い分けをしています。Teamsは多くの社員が常に立ち上げているため素早く共有できずし、グループチャットに情報を残すと、すべての関係者に経緯を把握してもらいやすくなります。ツールを使い分けて効率的なコミュニケーションを行うことで、先期まで上司だった坂田茉莉子さんからは「お客様に対してチームで動いているという感覚を、メンバーに醸成できている」との評価もいただきました。

また、「返信の速さ」も以前より強く意識するようになりました。顔を合わせられない状況で返信がないと、相手は不安になります。忙しい中で対応してくれている相手が不安になることはしたくない。そんな想いで、とにかく素早い返信を心掛けています。

働き方の変化により、お客様とのコミュニケーションも大きく変わりました。オンラインだと移動時間が必要ないため、ショートミーティングを頻度高く開催したり、メールで済む話でも敢えて電話をして雑談したりすることも。お会いできない分、コミュニケーションの量は意識的に増やしています

オンラインで行われた新人さん紹介の様子。
 初回開催の8月は、50名以上の社員が参加し、大盛況だった



参加者から新人さんへ、チャットで沢山の質問が投げかけられた



デジタルテクノロジー事業本部、データビジネスデザイン本部、データマネジメントプラットフォーム事業本部の3本部横断で、「新人さんいらっしゃい！企画」を実施しています。目的は、「コミュニケーションを活性化させ、新入社員の方が早く会社馴染めるようにすること。具体的には、お世話係というのは、耳慣れないかもしれませんが、業務のフォローをするメンバー以外に、「ライトな悩みごとを気軽に相談できる人」という立ち位置の人を部署外から1名アサインしてもらっているのです。

リモートワーク環境で入社した新入社員の方が、会社や周囲に対する理解を深めてスムーズに業務を進めるためには、密なコミュニケーションが必要不可欠です。会社を好きになってもいい、楽しく仕事ができるよう、受け入れ側としてできることを今後も考えていきたいと思います。



本部横断企画で新入社員を受け入れる

デジタルテクノロジー事業本部
 飯塚勇生さん

03 他部署との交流機会が減った

出社回数が減ったことで、他部署の人とのちょっとした雑談やランチなど、コミュニケーションの機会が少なくなったと感じる方も多いはず。社内でのつながりを大切にしている方は、オンライン上でどのようなことを心掛けているのでしょうか。



他部署と関わる機会は自分から作る

Global IT本部
 岩田朋子さん

新卒のメンターに応募したり、部署横断の勉強会には積極的に参加したりと、業務上の接点が少ない方と話す機会を自分から作るようにしています。私自身が業務で悩んでいた時に、他チームの方に話を聞く場を設けたこともありました。また、既存の知り合いには、時々Teamsで連絡を取るようになっています。私は社歴が比較的長いので、お互いのことをよく知っている社内の人は、「長い付き合いの友人」という感覚なんですよ。人生やキャリアのフェーズが変わると見える景色や悩みが変わることもあるため、そんな話をできる人が社内にいるのはとても有難いです。

私にとって他部署を含めた社内のコミュニケーションは、働く上で必要不可欠なことです。働き方が変わり対面で会う機会は減ったとしても、大切にしていきたいと思っています。

ね。その中で得られた情報は社内のメンバーへ共有し、皆でお客様理解を促進できるようにしています。

リモートワークで業務を円滑に進めるためには、コミュニケーションの量と質が大切だと思っています。時には雑談も交えながら、お互いを思い合って取り組んでいきたいですね。

同じ悩みを持つ人へメッセージ

雑談は、業務のしやすさにもつながる！

他部署の人や職級が上の人であっても、ミーティングの際には雑談を挟むなど、気軽に話しかけてみて欲しいと思います。きっと皆フランクに答えてくれるはず。

NEW!
 UPDATE

菊地さんのアップデートポイント



コミュニケーションツールは、時と場合で使い分け

社内外問わず、相手の状況を考えて最適なツールでコミュニケーションを図る。どんな方法がお互いが一番ストレスがないかを考えることがポイント。

しっかりリフレッシュして、すっきりとした気持ちで相手と向き合う

昼食は自炊、19時になったら一旦全ての業務をストップして散歩をするなど、リフレッシュを大切に。自分がすっきりとした気持ちだと、相手のことを丁寧に考えられる。写真は先日作ったミートパイ。



皆でZoomにアクセスし、東京2020オリンピックをオンライン観戦しました。少人数ではありませんでしたが様々な部署から参加者が集まり、なかには新入社員の方もいて良い交流機会になったと思います。参加者からは、「家族と一緒にTVを見ている感覚で楽しめた」「皆さんのスポーツマニアぶりが垣間見えて面白い」との声が上がっていました。

私は、オンラインでも、できる限り出社時と同等のコミュニケーションを取りたいと考えています。オリンピック観戦は4年に一度しかできないこと。出社ができていたら、きっと皆で集まって観戦しただろうと思っただけの企画でした。今後も社員同士の交流機会をたくさん生み出していきます。

部署を超えた交流を！好評だった「五輪観戦」の会

データビジネスデザイン本部
 齊藤司さん



出社時よりも、プロジェクト関係者への小まめな連絡を意識しています。リモートワークになった当初は一人で黙々と進めがちで、上手くいかなかったこともあり、最初に方向性の擦り合わせを行うのはもちろん、進捗確認や報告をより丁寧に進めるようになりました。また、グループ内のTeamsの雑談チャンネルでは、絵文字でのリアクションだけでなく返信したり、話題を振ったりすることも心掛けています。

どちらも出社時には自然とできていることだと思いますが、リモートワーク環境では意識をしないとコミュニケーション量が自然と減り、その結果業務がスムーズに進まないこともあります。周囲が何をしているのか見えづらいからこそ、「自らの働きかけ」を大切にしたいと思います。



自らの働きかけで
 コミュニケーション量を担保
 リサーチアーキテクト本部
 齊藤 遥さん



相談しやすいコミュニティで小さな疑問をすぐに解決

第1事業本部
 高橋 京子さん



入社1、2年目の方が気軽に質問や相談をできる場として、同じグループに所属する3年目までの社員で「若手チャンネル」というTeamsのチャットグループを作りました。案件のフォローはマネジャーとメンターの先輩社員がしていますが、上司やメンターに聞くほどではないちょっとした質問や相談をチャットに投稿してもらっています。毎週何かしらの質問が投稿され、想定以上に活用されていて嬉しいのです。3年目の田辺詩誉さんと私が主に回答をしています。最近では2年目の堀部秀志さんも自然と答えてくれるようになり、チームとして良いコミュニケーションが生まれているなと感じています。また、先日は田辺さん主催のもと、若手チャンネルのメンバーでオンライン飲み会も初開催。それまでとても緊張している様子だった後輩の表情が和らぎ、沢山話をしてくれて、一気に距離が近づいたのを感じました。お互いが打ち解けることでより相談しやすくなると思うので、今後もそういった会を企画したいと思います。

私自身、入社1年目の頃は色々悩んだ時期があり、正直、会社を辞めてしまおうかと思ったことも。でもそんな時、先輩や同期が親身になって相談に乗ってくれたおかげでどうにかここまでやってこれました。リモートワーク環境で入社した新卒社員はきっと、「こんな些細なことでチャットして良いのかな」と悩むことが多いのではないかと思います。そうした小さな疑問や悩みをすぐに解決できる場を作り、私が先輩にしても良かったことを、今度は後輩たちへ少しでも還元していきたいです。

05 メンバーや後輩をフォローしづらい メンバー・後輩へのフォローの仕方は、出社が前提だった時と比べて、どのように変わっているのでしょうか。



メンバーの商談や報告会に同席した際は、終わった直後に時間を取り、チャットや通話でフィードバックをしています。往時は帰りながら話していましたが、オンラインだとそれができないため、時間をちゃんと設けるようにしました。また、メンバーからチャットで質問をもらった際に、細かいニュアンスを伝えたい時や、近況も含めて話したい時も、通話を活用しています。

その時の状況にもよりますが、リモートワーク環境ではできるだけ、「長時間×少ない」より、「短時間×多い」コミュニケーションを意識しています。顔を合わせていた時にコミュニケーションのベースになっていた「小さな会話」を忘れないようにしたいですね。



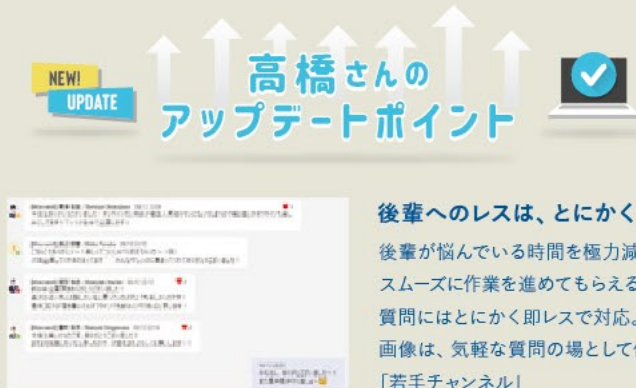
「小さな会話」を
 意識的に取り入れる
 第1事業本部
 池田 恭耶さん

同じ悩みを持つ人へメッセージ

会えない状況では、
 過保護なくらいがちょうど良い！

オンラインのやり取りでは、相手を過度に思いやるぐらいがちょうど良いと思います。チーム会などでは後輩の声のトーンやタスク量に注目し、気になったらぜひ声をかけを。

後輩へのレスは、とにかく早く
 後輩が悩んでいる時間を極力減らし、スムーズに作業を進めてもらえるよう、質問にはとにかく即レスで対応。
 画像は、気軽な質問の場として作った「若手チャンネル」



～他にも知りたい！～ みんなの工夫

3つのカテゴリー以外でも、
 リモートワークになって
 皆さんが実践している工夫をご紹介します。



セットプランで
 通信費の削減に成功
 第2事業本部
 児玉 貴史さん

リモートワークに伴い、それまで通勤など移動時に使用していたモバイルWi-Fiでは通信量の上限を超えてしまうようになりました。さらに通信速度も遅く作業効率が低下したため、スマホと光回線のセットプランに切り替えました。その時に実家も巻き込み、妻だけでなく両親も一緒に家族割に加入しました。光回線への変更で通信速度は改善されましたし、家族割対象人数が増えたことで、料金も各家庭で約3千円/月ずつ抑えることに成功！次は電気代の見直しを画策していて、アンペア数やプランについて、あれこれ調べているところです(笑)。



ツールを駆使して
 リマインド通知を自動化
 デジタルテクノロジーズ事業本部
 宮沢 冷奈さん

リモートワークによってグループ内で声を掛け合う機会が少なくなり、月末の勤怠確認を忘れがちに。そこで私が毎月末にリマインドをする担当になったため、ノーコードツール[※]を使って、グループメンバーへ自動で通知が届くようにしました。私は普段から効率化を考えることが好きで、小さな作業であっても、毎月発生するものは自動化したいと思っていました。調べたところ、『Power Automate』という業務を自動化できるMicrosoftのツールが既に入っているのを見つけました。

今はまだリマインド通知にしか使用していませんが、他にも様々な所で業務の効率化に役立ちそうです。ツールを使いながら効率化を進めてその時間を周囲とのコミュニケーションに充てたいと思っています。

※ソースコードを書かずソフトウェアを開発できるサービスのこと



「Power Automate」画面。
 直感で作業できる。

07 仕事をしながら運動もしたい

仕事をしながら運動もできたら、一石二鳥ですね。血行が良くなると、頭が冴えて仕事の効率もアップしそうです。



**運動もメリハリも叶える
“立ち仕事”**
リサーチアーキテクト本部
鈴木公大さん

スタンディングデスクを購入し、基本的に立って仕事をしています。集中力が切れてきたらすぐに体操など軽い運動ができますし、「一定時間集中して、一区切りしたらリビングのソファに座る」など、仕事のメリハリもつけやすくなりました。



自動昇降機能付きなのと、デスク下の空間が広くて椅子をしまえる所がお気に入り



リモートワーク中は常に、椅子ではなくバランスボールに座って仕事をしています。座る位置が安定すれば、意外と疲れることなく椅子と同じように座っていられます。座ったまま跳ねるバウンス運動や腰回しで運動も手軽に取り入れられます。私はバランスボールを使うようになって腰痛が改善されたので、腰痛がある方には特におすすめです。

**椅子の代わりに
バランスボール**
グローバルリサーチ本部
井上淳子さん



08 続かない

1人だと挫折しがちな運動も、皆で励まし合いながら行えば続けられるかも！
定例ミーティングの中で運動時間を設けているチームを紹介します。



**チームの日課、
マウンテックライマー**
Global IT本部
大石達也さん

毎日の定例会を開始する前に、1分間のマウンテックライマー※を実施しています。1分という短い時間ですが、リフレッシュでき体もほぐせるので好評です。また、コミュニケーション活性化という点でも非常に効果があるように感じますね。元々賑やかなチームですが、皆であれこれ言いながらマウンテックライマーを一緒にやることで、離れていても同じ空間にいるような気持ちになれます。



マウンテックライマーがしやすいように、定例会には全員ラフな格好で参加。「あと10秒!」「つらいよー!」などの声が飛び交う

**パートナー会社の方も含めて
ラジオ体操**
Global IT本部
越野雄弥さん



毎日の朝会でラジオ体操を行っています。チーム内で、連休明けに体調を崩す人が増えたことをきっかけに、日々の運動不足を少しでも解消しようとして取り入れることになりました。習慣化するにはラジオ体操くらいの負荷がちょうど良く、メンバーからは「肩こりが改善された」「体調が安定するようになった」「業務に入るスイッチのような役割になっている」などの声が上がっています。朝会はパートナー会社の方も含めて行っていますが、皆でラジオ体操をすることで雰囲気や和み、チームの発言しやすい空気づくりにもつながっていると思います。

※体と床が向き合うようにして膝を蹴りだす動きを繰り返すトレーニング



お悩みテーマ2

運動不足

社員の皆さんへのアンケートで一番多かったのが、運動不足のお悩み。体を動かす機会が減ったことで、血行が悪くなり肩こりや腰痛に悩まされている方もいらっしゃるかもしれません。ここで紹介する皆さんの工夫を参考に、ぜひ自分にあった方法を試してみてください。

06 運動時間を確保できない

運動時間を継続して確保するのは、なかなか難しいもの。短時間で取り組めるものや、今までの通勤時間を活用してできる運動は、どのようなものがあるのでしょうか。

短時間でも毎日実行！なかやまきんに君の動画で筋トレ

第2事業本部
貝賀菜子さん



▼動画を見る



特にお気に入りなのは腹筋の動画。3分半で終わるので、時間が取れない時でも気軽にできる

通勤がなくなり運動不足になったので、ダイエットも兼ねて、なかやまきんに君のYouTube『ザ・きんにくTV【The Musclev】』を見ながら筋トレをしています。どの動画も説明が分かりやすく、初心者向けのトレーニングも多いため、これから筋トレを始める方にもおすすめ。筋トレは1回に長時間行うよりも継続する方が大切だそうなので、短時間であっても毎日スクワット10回などを継続し、運動不足で凝り固まった身体をほぐしていきたいです。



子どもの送迎を徒歩に変更

リサーチアーキテクト本部
伊藤千絵子さん



娘さんと一緒に、四葉のクローバー探し

以前は子どもの保育園の送迎にバスを利用していたのですが、通勤時間がなくなり時間に余裕ができたため、徒歩に変えました。子どものペースに合わせてるので毎日合計で1時間半くらい歩いています。歩きながら空を見上げたり、草や虫を探したりするのは季節の変化が感じられてリフレッシュできますし、仕事とプライベートを切り替える大切な時間にもなっています。



**運動不足は
出社ついでに
歩いて解消**
Global IT本部
久米康之さん

私は業務の都合上、週3日ほど出社の機会があるので、出社日の帰り道は1駅手前で電車を降りて歩いていきます。運動不足解消になるだけでなく、以前と比べて自宅周辺に詳しくなりました。夏は汗をかくので帰りのみにしていましたが、涼しい時期は朝に歩いても気持ちが良いかもしれません。

2部署に
聞いてみた！

リモートワークと出社は どう使い分けるべき？

コロナ禍での新設から1年が経過したライフサイエンス事業本部、そして営業に配属された新入社員の教育を担うセールスディベロップメントU。両部署のリーダーたちに、出社とリモートワークの効果的な使い分けについて聞きました。



ライフサイエンス事業本部
吉田昂平さん

新組織だからこそ、
対面でのコミュニケーションが
必要だった

ライフサイエンス事業本部は、コロナ禍でリモートワークへの移行が進む中で新設されました。新規事業で業務フローや役割が明確に決まっておらず、さらにはメンバーの状況や、日々寄せられる相談を誰がどう拾っているのかも見えづらく、最初はとても混乱していましたね。もちろんTeamなどのツールは活用していましたが、定期的に顔を合わせる必要性を感じ、緊急事態宣言の出ていない時期は週に1回出社推奨日を設けることにしたんです。出社をすることで、メンバーが積極的にコミュニケーションをとるようになり、「もっとこうしたい方が良いのでは」というチーム内での議論も活発になりました。出社推奨日を設けた当初は、頻度を週1回に設定していたのですが、実は「出社しなくても良いのでは」という声もあつたんです。しかし実際に始めてみると全員が必要な時間だと認識してくれたようで、逆に週1回実施へ頻度を増やすことになりました。業務自体は出社せず対応できることがほとんどですし、個人で完結するものはリモートワークで全く問題ないと思っています。一方で、例えば皆で議論を深めたり、アイデアを出し合ったり、あとは雑談から新たな発想が生まれるような、いわゆるセレンディピティはやはり対面の方が向いていると感じます。また、私たちの本部では、オ

出社とリモートを組み合わせた
新人育成で、順調な立ち上がりを実現

青木康佑さん (中央)
セールスディベロップメントU
大家力さん (左)
下山いいさん (右)



セールスディベロップメントU (以下、SDU) 内のインサイドセールス・カスタマーサクセスGと、インサイドセールス・人材開発G (以下、ISG) は、営業配属になった新卒社員が多く所属するチームです。育成の観点から対面でのフォローを行うため、緊急事態宣言中を除き、週2日の出社推奨日を設けています。新卒社員には「リモートワークでも気軽に相談して」と伝えていても、当初は先輩社員の状況が見えないため必要以上に気を遣ってしまい、なかなか連絡しづらかったようでした。その分出社時には、質問をしたい新卒社員が先輩社員の席に殺到し、常に列ができるほど。有難いことに、SDU内には新卒社員のために出社してくれる先輩社員もいて、出社は両者がつながりを深める場にもなっています。また先輩社員がお客様と電話でやり取りする様子も、新卒社員には学びになっているようです。

一方で、オンライン上でも出社時と同様のコミュニケーションを取れるよう工夫をしています。例えば、気軽に質問をしてもらうために21新卒向けに用意したTeamの会議の場、「オンライン執務室」。週に数回、私たちがカメラをONにして待機し、質問がある人には自由に出入りしてもらっています。また、新卒社員が集まる「夕会」、SDU全体で実施する「デイリー共有会」では、案件の事例紹介、お客様対応に関する相談や雑談など、

オンラインミーティング時もカメラをONしてお互いの顔を見ながら話すことをルールにしていますが、やはり対面の方がより早くメンバーの調子や状況の変化に気付くことができます。新規事業がゆえにメンバーの置かれている状況を想像しきれないこともあり、時には気付かぬうちに負荷を掛けてしまうことも。そういった状況をできる限り避けるためにも、対面で早期に気付いて解決策を打ちたいと思っています。

今後も、社会情勢や部署の規模、その時々のできるフェーズでやり方を変える必要は出てくるかもしれませんが、リモートワークと出社それぞれのメリットを活かしながら、皆が働きやすく、スムーズに業務が行える環境を整えていきたいと思っています。



様々なテーマで新卒同士や、時には新卒社員と先輩社員が話す場も設けていて盛り上がっていますね。そして他部署の皆さんにはオンライン研修をはじめ、メンターとして日々のフォローやケアをしていただいており本当に感謝しています。

ISGに配属されて約1年が経過した20新卒は、皆順調な成長ぶりを見せてくれています。基本的にリモートワークで働いてきた、いわゆるリモートネイティブ世代は私たちが思う以上に新しい働き方に適応していますが、私たちが新卒時代に経験していない環境だからこそ想像を巡らせ、配慮を忘れないようにしたいですね。

オンラインでの教育や育成面ではこの1年で社内において先進事例を生み出せたと思っています。引き続き社会状況を見つつ、業務に関わることはオンラインで、コミュニケーションについては対面の機会も併用しながら、有効な使い分けをしていきたいと考えています。

「歓迎の気持ちを伝えたい！」とバーベキューを開催



社会状況が落ち着いている時期を見計らって開催。改めて歓迎の気持ちを伝えつつ、交流を深めるために、先輩社員が新卒社員をおもてなした。
※写真撮影時のみ、マスクを外しています。

お悩みテーマ3

モチベーション・集中力の維持

リモートワークは通勤時間を有効に活用できる利点がある一方で、仕事への切り替えや、顔を合わせて仲間と切磋琢磨できないなど、気持ちの維持に難しさがあるようです。そうそう！という方も多いと思う中、皆さんのちょっとした工夫を集めてみました。



09

ONとOFFの切り替えが難しい

仕事とプライベートの空間が同じため、退勤後や休日もついつい仕事が気になってしまうことがあるかもしれません。皆さんの取り組みを参考にしながら、自分に合った切り替え方法を見つけてメリハリを付けたいですね。

一週間の締めに 美味しいビール

グローバルリサーチ本部
中澤優さん



よほど緊急の仕事が発生しない限り、毎週金曜日は20時までに仕事を終えて、妻とビールを飲むと決めています。金曜日に少しでも早く退勤するために意識しているのは、前倒しで着手できる仕事を月・木曜日に集中して終わらせること！また、金曜日以外は退勤後の晩酌もしません。一週を終えた後の格別に美味しいビールが、休日（OFF）につながる良い切り替えになっています。

ONとOFFで部屋のレイアウトを変更

デジタルテクノロジー事業本部
林文佳さん



平日のレイアウト。
中央の空いたスペースで、仕事の合間に体操もできる



休日のレイアウト。
机は昇降式なので、ソファに合わせて高さも変更

私は、平日と休日で家具の配置を変えています。引っ越しや家具の買い替えをせずとも、平日は正しい姿勢で仕事に集中し、週末はソファでゆっくりとテレビを観ることが出来ます。配置換えは気持ちの切り替えにも役立っていますし、平日の配置は部屋の中央にスペースができて、仕事の合間にリフレッシュのためにやっているラジオ体操もしやすいです。



同僚のような存在の スマートスピーカー

第2事業本部
濱本鴻志さん



愛用のスマートスピーカー。
サイズは小さくとも存在感抜群

「お昼です」「16時です」など定期的に声を掛けてくれるスマートスピーカーが大活躍しています。オフィスでは、周囲の動きやちょっとした声掛けなどから、時間の流れを感じることができました。私にとってそれは、煮詰まった時に休憩を挟んで仕切り直したり、仕事の進み具合を振り返ったりするきっかけになっていて、重要な要素だったんです。リモートワークではそういった周囲の動きを感じることができないので、スマートスピーカーに同僚のような役割を担ってもらっています（笑）。

朝は目覚ましのアラーム音の後、天気やニュースを教えてください。身支度をしながらそれを聞いていると、通勤がなくても自然と仕事モードに切り替えられる所も気に入っています。

休日は実家に帰り 英気を養う

リサーチアーキテクト本部
小原日登美さん



リモートワークになってから、平日は一人暮らしの自宅で過ごし、週末は自宅近郊の実家に帰ることが多くなりました。コロナ禍で友人とは気軽に会えない時期が続いていますが、実家で家族に日々の出来事を共有したり、新たに挑戦した料理を振舞ったりすることで気持ちがリフレッシュされて、月曜日から仕事のモチベーションが上がります。休日に感じたことや、誰かと話して得た情報が仕事のアイデアにつながることもあるので、社会状況を見ながら、人とのつながりも大切にしていきたいです。



「息抜きの方法、教えてください！」

執行役員の皆さんの ON/OFF切り替え

責任ある立場の皆さんは、どのように切り替えたり、息抜きをしたりしているのでしょうか。意識していることや取り組んでいることがある方に、その秘訣を教えてくださいました。

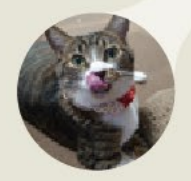
愛猫の存在に癒される

第1事業本部
関口暢康さん



元々ONとOFFを切り分けられない方なので、どうせなら仕事をもっと楽しもうと、自分の中で「仕事」や「楽しい」を定義して、仕事のスタンスを明確に決めています。例えば、私は自分が介在することで新しい価値が生まれることに高揚するタイプなので、仕事のスタンスとして常に主体性を重視。そのおかげで迷わず仕事に取り組んでいると思います。

息抜きを一つ挙げるなら、昨年迎え入れた保護猫のアニー。時々会議に参加することもあります。アニーのおかげで人恋しくなりがちなりモートワーク環境でも癒されていますし、撫でているだけでも和みますね。さらにアニーのインスタアカウント(@anniepapamama)を運営しているので、日々の投稿を考えるのも良い気分転換になっています。



愛猫の
←アニーちゃん

コーヒー豆の焙煎機。
ひと手間で美味しさが
格段にアップ ↓



現実世界を忘れるほどの没入感を
味わえる「Oculus Quest2」↓



どんなに忙しくても ランチは外食！

コーポレートコミュニケーション・IR本部
高橋亮さん



リモートワークで家にいる時間が長くなりがちなので、仕事にメリハリを付けるため、意識的に環境の変化を起こすようにしています。その一つとして取り入れているのが、どんなに忙しい時でも、可能な限りランチは外食をすること。スケジュールが詰まっていたり、時には食べている時間より移動時間の方が長いこともあります。一度環境を変えることで気分がリセットされ、次の仕事にまた集中して取り組みます。ちなみに、外食ランチで最も多用しているのが家から徒歩5分の所にある、『つじ半』の海鮮丼。ちょっとびっくりするくらい美味しく、お刺身、丼、鯛だし茶漬けと、丼もののなかに3パターンの変化を楽しめるのも気に入っています！

技術の進歩を体感する

データビジネスデザイン本部
斉藤司さん



リモートワークになってから、お茶やコーヒーにこだわるようになりました。コーヒーは焙煎からずるようになり、ハーブティーも複数揃えて、気分や時間帯によって飲み分けています。リラックスして集中でき、気分良く働いています。

また、最近、Facebook社が開発したVRヘッドセット「Oculus Quest2」や、電気自動車「テスラ」も購入しました。世界の技術は日々着実に進歩しています。コロナ禍で人と会ったり出掛けたりができず、刺激を受ける機会が減少しているため、最新のものに触れて技術の進歩を体感するようにしています。新しいものに触れるとワクワクして気分転換になりますし、そこから得た刺激や気づきが、結果として私のミッションであるプロダクト開発にも活かされているように思います。



10 仕事に集中しづらい

励まし合う仲間が側におらずやる気が起きない、ついつい家事などが気になってしまう…。そんな経験がある方は、皆さんの工夫の中から興味のあるものを取り入れてみてはいかがでしょうか。



雨音は集中力の持続に効果的
 データマネジメントプラットフォーム事業本部
 瀬川順弘さん

アプリで集中するきっかけを作る
 リサーチアーキテクト本部
 鈴木舞さん



妹に教えてもらい、『集中』というアプリを使っています。タイマー機能がメインのシンプルなアプリですが、「まずは10分」とタイマーをセットするだけで集中力をすぐ高められたので、私には合っていたようです。アプリ上では集中モードの後に休憩モードを選択することもでき、休憩が終わると「よし、次いきますか！」「いっけええええええ！」などの通知が畳み掛けのように届くので（笑）、「また集中するか！」という気持ちになれます。



→アプリはシンプルナリ。
 タイマー機能以外に、集中するためのちょっとしたコツなども読める

色々な「音」を聞いて、集中力が持続するものを探しています。オフィスでは周囲と話しながら仕事をすることも多く、音楽を聴くことはなかったのですが、リモートワークになり音楽や自然音を聴くようになりました。私が集中力の持続に一番効果的だと感じるのは、「雨音」です。「森の雨」や「雷と雨」など結構種類があるんですよ。窓を開けて外の音を聞いたり、風を感じたりすることも効果があるように思います。

新サービスの企画など、物事をじっくり深く考える仕事が多いため、脳に刺激を与えるためにも、定期的に環境を変えてリフレッシュするようにしています。その一つとして取り入れているのが、屋外での仕事。引越して自宅近くにちよつとした森があったため、たまにそこで仕事をしようになりました。緑に囲まれ、非常にリラックスして仕事ができますし、ミーティングに参加すると、背景が会話のネタにもなります。その他に自宅のベランダで作業することもあります。夏は蚊との戦いですが、春や秋は気持ちが良いのでおすすめです。

緑に囲まれて仕事が捗る
 データビジネスデザイン本部
 丹治俊一さん



↑森の中からミーティングに参加。
 風で木々がざわめき、アイズブレイクのネタに

時間管理法のひとつである『ポモドーロ・テクニック』を取り入れました。25分間の集中と5分間の休憩を1セットにして繰り返し手法で、私は2つのキッチンタイマーでそれぞれ時間を計って実践しています。「25分間の集中タイムはメールもTeamsも見ずに作業に集中する」と自分の中のルールを作り、「まずは25分頑張る！」と意識して取り掛かることで、「何となくやる気が出ない…」ということがなくなりましたね。ただ毎日実践し続けていると、かえって手法にとらわれてしまいうるため、気分を変えたい時、やる気を出したい時などに敢えて取り入れています。



80年代から支持される手法で集中力アップ
 Global IT本部
 寺下亜友美さん

11 浮いた通勤時間を有効活用できていない

通勤時間がなくなっても、その分起床が遅くなったり、何となく過ごしてしまったりと、時間の有効活用はなかなか難しいもの。働き方が変化した今こそ、自分が挑戦してみたかったことや興味のあることにじっくり向き合ってみませんか。



浮いた時間を、ずっと学ばれた英語学習に
 リサーチアーキテクト本部
 高野創一郎さん

浮いた通勤時間を活用し、念願の英語学習をスタートしました。私が学んでいるのは、毎日オンラインレッスンを受けられるビジネス英会話プログラム。5月に始めてから欠かさず学習を続けています。平日は業務終了後にレッスンを受講し、翌日の業務開始前に、前日の復習とその日の予習をするのが日課です。朝型の私は毎朝5時に起床するのですが、リモートワークでもこの習慣を変えずに、通勤で使っていた時間をそのまま学習に充てています。そのため、繁忙期に業務の終了時間が遅くなった時でも、問題なく学習を続けられていますね。始めは習慣にするのを難しく感じたこともありましたが、きつと「やらされていること」だったら続けられないと思います。ずつと学ばれた英語学習を何故何でも絶対に継続する」と強く決意して、習慣化するまでは学習時間にアラームを設定し、自分自身を駆り立てるような工夫もしていました。そうやって1カ月続けたことで、学習が自然と生活の一部になりました。また、退勤後に英語学習をすると決めたことで、仕事の段取りを考えながらより集中するようになり、結果的に業務の生産性も上がったと感じています。

最近では、学習当初よりも会話の中で英語がすぐ思い浮かぶようになりました。今後は、TOEICのスコア900点超えが目標の一つです。そして、学んだ英語を現在の業務に活かすことはもちろん、マクロミルが掲げるアジアNo.1の達成に貢献できるような、引き続き取り組んでいきます。

同じ悩みを持つ人へメッセージ

**新しく始めたいことがある人は
 今がチャンス！**

通勤がなくなったことで、時間が捻出しやすくなったり、体力的な負担が減ったりした方も多いのではないのでしょうか。新しく始めたいことがある方は、今が始めるチャンスだと思います。ぜひ一歩踏み出してみてください！

時間管理を徹底！

通勤がなくても起床時間を変えないことで、通勤時間分を有効に活用。また、学習が習慣化するまでは、学習時間にスマホの胸騒ぎがする音をアラームで設定し、自分を奮起させた。



高野さんの アップデートポイント



まとめ

社員の皆さんへのアンケート結果によると、「リモートワークで困ることは特にない」と回答した人は、全体（136名）のうち、僅か2.2%でした。多くの方が、何かしらの悩みや課題を抱えていることが分かります。今回紹介した様々な取り組みが、そうした困りごとを解決するヒントになれば嬉しいです。働き方や働く環境には正解がなく、その時々状況によって理想も変わります。皆でアイデアや工夫を共有し合いながら、より良い状態を目指してアップデートし続けていきたいですね。



ディズニーのマグカップ

家族で東京ディズニーランドへ行ったときに、夫が購入してくれたのがきっかけで集め始めました。今では家族に「また買うの!?これ以上どこに置くの!?!」とされています(笑)。25周年限定スーパーカップは記念のアイテムです。



第2事業本部
篠宮彩さん



マグ大集合~!

スタバのマグカップ

スターバックスが大好きで、学生時代に4年半アルバイトをしていました。アメリカのオーランドにあるウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートは、4つのパークにそれぞれスタバがあり、全部回って4種類のデミタスカップを手に入れました!



第1事業本部
大越初音さん



メガネ/マスク

メガネもマスクも10アイテム以上を所有。メガネのフレームはカタチやカラバリが豊富なので、服とのコーディネートを考えています。人と会う機会が減ってしまったコロナ禍でも、ファッションを楽しみたいです。



リサーチアーキテクト本部
金子圭一郎さん

メガネ 15年 / マスク 2年



LOVE♡ファッション



「推しとは?」
好き・応援したい・人に薦めたい人やモノを表す言葉。もとはアイドルやキャラクターといった人物を「推し」の対象とすることが一般的だったが、モノに対する表現としても用いられる。

推し

皆さんはいっぱい集めてしまおうモノ、ありませんか?どんなモノでも数が集まれば立派なコレクション。愛情が深まれば「推し」となり、思わず誰かに見せたいくなるものです。そんなみんなの推しコレクションを集めてみました。

大集合

#私の旅行の楽しみ方

御朱印

旅行先の神社や寺で集めた御朱印は約120枚。御朱印帳は現在6冊目になりました。初めての御朱印は台東区の吉原神社でいただいたもので、弁天様の這いの蛇が描かれているのが可愛らしく気に入っています。



Global IT本部
高木希さん

水族館のパンフレット

15年間で全国124か所の水族館めぐり、パンフレットやチケットをコレクション。高知県室戸市にある「むろと廃校水族館」は、廃校となった小学校を水族館としている珍しい場所です。



リサーチアーキテクト本部
永野龍典さん



スノードーム

旅行先で集めたスノードームは40個以上。海外で購入したものは丁寧に梱包しないと、スーツケースの中で破損してしまうことも(泣)。お気に入りはシアトルで買った「スノー」ならぬ「レイン」ドームです。中で雨が降ります。



法務総務本部
川又芽久さん



煎茶

コロナになってから、健康のためにカテキン含有量の多い煎茶を飲み始めました。今ではいろんな種類のお茶を毎日飲んでいます。煎茶堂東京の「シングルオリジン煎茶缶」はパッケージがカワイイので、ついつい集めたくります。



デジタルテクノロジー事業本部
林文佳さん

No Anime No Life

ポケモンカード

ここ数年、レトロ系のグッズの価格がどんどん高騰。写真のカードは20年前に発売されたポケモンカードをアメリカの機関が鑑定したもので、密閉されて状態が良いこともあり、2枚でそれなりの価格となっています。



リサーチアーキテクツ本部
西山健太さん

アニソン(アニメソング)

6,000曲以上のアニソンをデータで収集しています。イチオシは初音ミクの「『マジカルミライ 2014』 OFFICIAL ALBUM」。ポカロDJ必携楽曲「ネクストネスト」が入手できるのはこのCDのみです。



法務総務本部
勝木弘喜さん

煉獄さんグッズ

「鬼滅の刃」で人気の煉獄さんグッズをコレクション。カフェや旅行先にぬいぐるみを持参して写真を撮るほどハマってます。なかでも「柱の継子」の任命証とバッジは、コラボカフェで条件をクリアした人しか手に入らない超レアグッズです。



デジタルテクノロジー事業本部
佐伯美砂さん

LAMYの万年筆

LAMYはシンプルなのに機能的なところが好きです。大学時代に、当時世界に2店舗しかない路面店でアルバイトをしていたのですが、閉店する際にLAMYを卸している会社の方から万年筆をいただいたことは良い思い出です。



デジタルテクノロジー事業本部
須藤美実子さん

LAMYは、
万年筆初心者でも
使いやすい!

万年筆/インク

リモートワークが続いたことで時間の余裕が生まれ、インク交換が面倒だった万年筆への思いが再燃。イチオシアイテムはラメ入りのインク。仕事で煮詰まった時に、太陽光に照らされたラメを見て気分転換しています。



Global IT本部
前島聡明さん

カエルグッズ

かえるのピクルスというキャラクターのぬいぐるみを中心に、カエルグッズをたくさん集めています。特にリュックは、子どもが小さいときに背負わせて、いろいろなところに遊びに行った思い出深い品です。



データビジネスデザイン本部
遠山可奈さん

桜グッズ

毎年、桜の季節に買い集めて20個ほどたまりました。特に桜の模様が彫られたお弁当箱がお気に入りです。このお弁当箱を買うか悩んだ際、せっかく買っても飾るだけになってはもったいないので、まずは2週間のお弁当作りを目標に設定。無事に達成できたため、購入しました。



リサーチアーキテクツ本部
三浦美優さん

ブランドマーケティングで企業を成功へ導くパートナーとして、ロゴデザイン、ブランドスローガン開発、マーケティングKPI策定、広告、CM・動画、Webサイト、SNS運用、ノベルティなど多岐にわたるアプローチを実施されています。代表取締役社長である朝倉昇誠様には、マクロミルの創業時より様々な面でご支援いただいております。これまでにCI（コーポレート・アイデンティティ）策定・刷新や、ノベルティ、会社案内、TVラジオ広告制作など、幅広く関与いただいております。



代表取締役社長
Account planner
朝倉昇誠 様



Account planner
関口健太郎 様

これまでtakibi様に制作いただいたノベルティの一部



「マクロミル」に対する 「光の当て方」を変える

—まずはMission・Visionの見直しを行うことになった背景から伺っていききたいと思います。当初は、「データ活用支援（データコンサルティング）事業」のブランディングについて検討を進め、今後マクロミルが目指すべき方向を考える中で、Mission・Visionの見直しを行う必要性を実感し、今回の策定に繋がったとお聞きしました。どのようなきっかけで本プロジェクトが始まったのでしょうか。

佐々木：マクロミルとしてお客様の課題解決を続けていくためには、マーケティングリサーチ事業だけに留まらず、「リサーチ」×「DATA」の会社への進化が必要だと、以前から社員の皆さんにもお話ししてきました。その中で、二つ形になりつつあるのが、主にお客様のDMP※におけるデータの活用を支援する事業（以下、データコンサルティング事業）です。私自身、そこに大きな可能性があると

光の
当て方次第で
大きな可能性
ある事業

と感じていて、マクロミルとしてもギアを上げて事業規模の拡大をしていきたいと考えていました。ただマクロミルに対するお客様のイメージは、いまだに

—最初に佐々木さんからお話があった時、朝倉様はこのプロジェクトについてどう感じられましたか。

朝倉様：率直に面白いし、意義ある取り組みだと思いました。そもそものブランディングは、モノに対する光の当て方だと考えています。モノ自体は変わらなくても、光の当て方一つでそれが高価に見えたり、安価に見えたりする。マクロミルさんは、これまでずっとリサーチ会社のカテゴリーに入っていました。実は他にも沢山提供できていることがあって、どう光を当てればより上位のポジションとして捉えられるかという話なんですよ。

新 Mission・Vision 策定の裏側

～マクロミルだからこそできること～

7月の全社キックオフで発表された、新Mission・Vision。
事業領域を拡大し、総合マーケティング支援企業への変革の最中にあるマクロミルは、未来を見据えてMissionを見直しつつ、Visionを刷新しました。
代表執行役社長の佐々木徹さん（写真中央）と、この策定プロジェクトを外部からサポートいただいた株式会社takibi様とのインタビューを通して、新しい指針ができるまでの過程や、込められた想いに迫ります。



新しい Mission・Vision

Mission

私たちの使命は、お客様のより良い意志決定を支援するために、お客様が心から満足し、感動するサービスを提供することです。そして、利益を追求し、企業価値を高めながら、社員がそれぞれの可能性に挑戦できる場所をつくっていきます。

Vision

私たちは、データネイティブな発想でお客様のマーケティング課題を解決し、ビジネスに成功をもたらすData Culture構築の原動力になることを目指します。

※感染症対策を行った上で、撮影時のみマスクを外しております。



佐々木…最初に昇誠さん(朝倉様)や関口さんとお話した際、「データコンサルティング事業は面白いし、光の当て次第で大きな可能性がある」と仰ってくださいました。

ずっと変わらない、マクロミルらしさは

「アウトプットに至るまでの過程で、印象的だったことはありますか。」

佐々木…お客様に直接ヒアリングをさせていただいたことですね。「データ活用におけるコンサルティングを行っていることをご存知ですか?」とご質問してみると、「マクロミルができる認識はなかった」と回答される方が多く、当然、コンサルティングファームに相談しているケースがほとんどでした。お客

様からは、「マクロミルってリサーチだけじゃなかったんですね。思った以上に色々相談できることが分かりました」と仰っていただき、現在では従来コンサルティングファームが行っていた領域をマクロミルがご支援するに至っています。私は、マクロミルの事業変革を成し遂げたいと考えていますが、その自信を強めることに繋がったヒアリングになりました。

関口様…今回一番の発見は、お客様のマーケティング活動においてDXを推進するには「戦略フェーズ」「実行フェーズ」に加え、「浸透フェーズ」が必要だということでした。

佐々木…そうですね。企業のDX推進フローについては私も仮説を持っていたのですが、当初は戦略と実行の2フェーズしか想定していませんでした。しかしお客様とお話する中で、DMPの構築後に、そこで扱うデータの活用を現場の業務にきちんと落とし込む「浸透フェーズ」があり、そこそが重要だと分かりました。そこからさらに議論を重ね、既存サービスの「MAG(マグ)」を改組する形で、DX浸透に特化した新サービス「DxBuddy」を本格的にスタートすることになりました。DX浸透パートナーという立ち位置で、DMP構築やデータの利活用支援およびコンサルティング業

務を提供していきます。

「下記のスライドに記載のある通り、「例えるならDXとはフィットネスによる肉体改造である」という表現が分かりやすいですし、ユークズですね。」

関口様…対外的な認知を高めるためには、3つ目のフェーズが新しい概念であることをサービス名と一緒に発表することが効果的だと考えました。その前提で考え抜いた末、最終的には「企業の体質改善を行う」という意味で、一番分かりやすい「肉体改造」に例えました。

朝倉様…少し話が変わるのですが、一連のやり取りの中で感じたのが、佐々木さんは「自分たちにもできる」という想いを強く持っているんです。例えば、コンサルティングファームと同じことをマクロミルも提供できるはずだと、その可能性を信じている。ファイティングポーズを取っている。佐々木さんのそういうところがカッコいいと思いますし、何とかしてその想いを実現していただきたいなと感じました。

佐々木…ありがとうございます。本気で勝ちにいきたいと思っているので、そういった意味ではファイティングポーズを取っていると思います。今、マクロミルはこの事業領域を説明するのに「データコンサルティング」という言葉を

サービスだと思っています。「マクロミルらしさとは何か?」をお客様にヒアリングしたところ、お客様との距離感が近く、フレンドリーな関係性を築けていることだと分かったんです。あくまで想像にはなりますが、コンサルティングファームだとやり方やノウハウだけを授けて終わりという、どちらかというとドライな印象があります。「一方で、マクロミルさんがあるものすごく評価されていたのは、お客様が求める本質的な成功を共に考え、チームの一員として溶け込みながら一連托生で進めていく姿勢でした。これって今も昔も変わらないマクロミルさんらしさですね。その雰囲気を手早く表す言葉を探して、複数提案した中で、最終的に「Buddy」を採用いただきました。「DX Buddy」はこうして生まれました。「Buddy」と聞くと、いわゆる海猿と呼ばれる海上保安官の人のように、対等な関係でゴールを目指す印象が強く伝わるので、とても良いですね。」

” 評価されていたのはチームに溶け込み一連托生で進めていく姿勢

“

「DX Buddy」が生まれた背景がよく分かりました。では、どういった流れでMission・Vision策定の話が

新Mission・Vision

「DX Buddy」が生まれた背景がよく分かりました。では、どういった流れでMission・Vision策定の話が



「まずMissionは、冒頭の「マクロミルグループは世界的なマーケティングリサーチ企業です」の一文をカットしましたよね。Missionは企業が果たすべき使命かつ存在意義ですが、

佐々木…私が代表に就任した際、今後マクロミルが目指すべき方向性を考えると、今がMissionやVisionを見直すタイミングだと思っていたんです。「DX Buddy」の話を進める中でTakib様と一緒に考えていくのがベストだと思い、「DX Buddy」が生まれた直後、一次はMission・Visionの見直しと一緒に考えていただきたい」とお話ししました。

出てきたのでしょう。



企業のDX推進のフローを表す3フェーズ

使っていますが、いわゆるコンサルティングファームと同じフィールドで戦ってそのポジションを奪うというよりも、「この領域は本来ならデータを扱う私たちが提供するものであるはずだ」という想いでいます。

「DX Buddy」という新サービス名はどのように決まったのでしょうか。

関口様…これも多くの案の中から厳選しましたね。「DX Buddy」は、昔から変わらないマクロミルらしさにあふれた

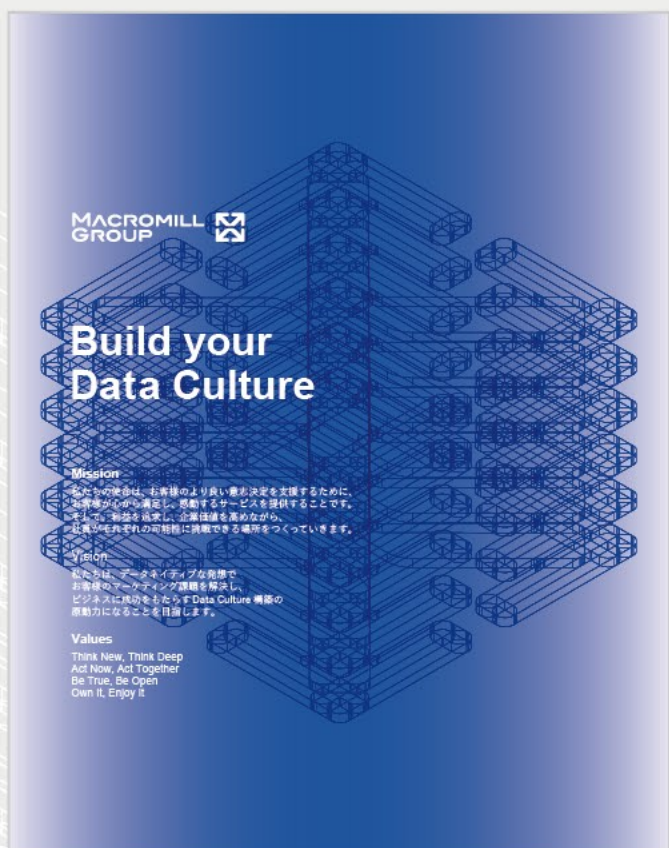
どのような議論を経て決定したのかを教えてください。

佐々木… Missionの文言を「から刷新することも選択肢として考え、takibi様から沢山のアイデアもいただきましたが、最終的には私の方でほとんど変えずにいくと決めました。もともとリサーチ会社に留まらない世界観の表現が必要だと思っていたので、冒頭二文目は削除しようと思っていました。ただ、それに続くメッセージの表現をどうすべきかについては、何度も繰り返し考えました。ご存知の方も多いと思いますが、二文目以降は、マクロミルの創業理念でもあり、20年以上もの間、掲げ続

けてきた指針なんですよね。私自身もずっと意識してきたことでやはり強い思い入れがあり、会社経営として普遍的な考えが込められていると思ったので、最終的に改めてこのままでもいいかと決意しました。

関口様…刷新することも想定していたので、あるべき表現を、かなりの人数が参加し、時間をかけて考えていた中で、最終的にこれまでのメッセージのままでいいかとスパッと判断されたのは、これぞ経営者、という感じがして感動しましたね。

朝倉様…やはり最後は自分の想いが出



完成した新Mission・Visionのキービジュアル

ますよね。何度も可能性を出し合ってこの結論になったので、元に戻したわけではなく、佐々木さんが新しく作ったと言っても過言ではないと思います。

「続いてVisionについてもお聞きします。Visionは将来の実現を目指すありたい姿ですが、「Data Culture」というキーワードが出てきたのが大きな変化ですよ。どのような経緯でこの言葉を採用されたのでしょうか。」

朝倉様…佐々木さんはマクロミルの方向性について「データカンパニー」というキーワードを挙げていましたが、「データカンパニー」を掲げる企業は世の中に沢山ある。また、データで何を作っているかや、どう扱うかによっても意味が変わるので、そう表現するのは避けたほうが良いかなと。そこで、何か適切な表現がないかと探していた時に、「Data Culture」という言葉がパッと出ていったんです。調べてみると、日本ではほとんど使われていなかったのですが、経営学誌「Harvard Business Review」や「McKinsey & Company」の季刊誌「McKinsey Quarterly」や「Data Culture」をテーマにした論文が執筆されており、アメリカの知の巨人たちがすでにこの言葉を使っていたんですよ。その時、日本で初めて「Data Culture」を掲げる会社に、マクロミルがなってもらえれば、と思いました。なぜ「Culture」

かというと、マクロミルの強みはお客様にロジカルに正しいということをお教えるだけではなく、「トライ&エラー」をして皆で「一緒につくるう！」という風土自体を作れることですよ。これはまさに「Culture」で、佐々木さんの構想と、お客様からの評価が繋がった瞬間でした。

佐々木…全てが繋がった、というのが一番重要ですね。マクロミルは創業以来、データを取り扱うことを生業としていたので、我々はいわば「データネイティブ」な存在と言えらると思います。普段の業務でそれを認識することはあまりないかもしれませんが、我々の根源的な強みの一つが「データネイティブ」であることなのは、お客様へのヒアリングでも確信が持てましたし、やはりお客様のことを思っ汗水流す「Buddy」

感がマクロミルらしさだなと。データネイティブな発想でお客様の意思決定を支援する、そしてマクロミルが介在することによってお客様の

”

マクロミルはお客様のビジネスを成長させる「Buddy」である

“

を持つてもらいたい。マクロミルには本当に優秀な人材が揃っています。変化を恐れず自信を持って、一緒にチャレンジしていきたいと思っています。

朝倉様…少し壮大な話になりますが、どのような領域でも時代が変わればゲームチェンジが起きます。例えば昔ならコンピュータは高価なものでしたが、今は以前に比べるとるかに手に入りやすい。あらゆる答えを誰もが簡単にWebで検索して見つけやすくなっている。言うならば一人ひとりが高性能なコンピュータを持っている状態です。すると何が起こるか、ただ

答えを教えてください。人よりも、人の感情を理解して動けたり、チームのムードを作ったりする人の方が価値がある時代が来るわけです。その時にマクロミルさんの「Buddy」感はそのごく大きな強みになりますよ。社員の皆さんがその価値に気づき、誇りを持てると良いなと思っています。

「新しいVisionが掲げられた今、社員へ期待したいことは何でしょう。」
佐々木…社員に期待することは二つあります。一つは、今私たちがやろうとしていることは新たなビジネスを「開拓」することで、大きなチャレンジだと認識してもらっています。もう一つは、マクロミルの事業にもっと誇りを持ってほしいということ。マクロミルの事業は決して下請け業務ではなく、お客様のビジネスを成長させる「Buddy」であると自信

要素分解をして改めて自分たちを知ることが大事

「Visionの「Build your Data Culture」について、建造物を表現したキービジュアルが印象的ですよ。どのように制作していったのですか。」

朝倉様…当社ではマクロミルさんの企業ロゴも作成させていただいたのですが、そのデザイナーさんに今回も依頼しました。そして、マクロミルロゴのデザイン要素を分解してもらい、それを積み上げることでBuild感を作り出しました。Cultureは二つの要素で成り立つものではなく、様々な要素が積み重なってできたものなので、その感じが伝われば嬉しいですね。

佐々木…昇誠さんが仰っていた光の当て方の話が核心をついていると思っていて、「DX Buddy」やVisionのキービジュアルも、議論は全て要素分解からスタートしたんですよ。やはり、自分たちを改めて知ることがとても大事だと思います。振り返ると、貫してマクロミルの可能性を信じてくれたtakibi様は、パートナーとして最適でした。

「マクロミルとtakibi様の関係にも「Buddy」感があるのかもしれないですね。」



本社エントランスでは新しいMission・Vision・Valuesのムービーを放映中。策定までのプロセスを感慨深く思う皆さん



PRESENT

アンケートに回答いただいた方の中から抽選で6名に、リモートワークのお悩み解消グッズをプレゼントいたします。
沢山のご応募をお待ちしております！



1名

濱本さん愛用！しゃべる時報で1日にメリハリを
スマートスピーカー Google Nest Mini



1名

利用中の社員多数♪楽しく運動不足を解消しよう！
リングフィット アドベンチャー



2名

井上さんオススメ！仕事中の椅子としても使える
バランスボール リング付き



2名

週末のリフレッシュに！中澤さんの愛飲ビール
ハイネケン (12本入り)

応募方法

QRコードよりアンケートにご回答ください。
アンケート回答締め切り：2021年10月15日（金）
当選者の発表は、賞品のお渡しをもってかえさせていただきます。



vol.165

Editor in Chief 下瀬貴子

Designers 田代正和
柳川亜紀子
松本麻友美

Editorial Staffs 神前愛美
岩原希未
横田理恵子
池田牧子
星隼平

Message 今回の特集では働き方をテーマに取り上げ、普段はなかなか見えづらい、皆さんの取り組みや工夫を紹介しました。リモートワークが主になり様々な課題や悩みが生まれる中、個人や組織単位でより良い働き方が模索されています。取材を進める中で特に印象的だったのは、時間を調整しながら柔軟に働く方がいたこと。例えばある方はフレックスタイム制を活かして10時20分に起床し、10時半から仕事を始めているそう。中には、早朝が集中できるタイプで朝6時頃から始業している方もいました。また別の方々は育児の都合や、自分自身の切り替えのため、19時には業務から離れると先に決めているとか。こうしたマイルールを持つことで生産性が改善されたり、働き方に対する満足度が上がったたりするのは良いことですね。今回紹介した事例の中から参考にしたいものがあれば、ぜひ個人や組織でも取り入れていただけたらと思います。皆でより良い働き方をつくっていききたいですね。

編集部一同

スキンケア
してない方が
恥ずかしい
時代らしい。

男の後半、
40年ハーフが、
はじまった。



いい年、
だから、
いい肌。

UL·OS

広告 大塚製薬株式会社の『UL・OS』は、マーケティング施策支援の領域でマクロミルのサービスを活用されています。

ミルコミは社外にも公開しているマクロミルの社内報です。社内やご自宅でもお読みください。

なお、本誌記事の無断掲載を禁じます。

発行 株式会社マクロミル 編集・制作 コーポレートコミュニケーション・IR本部

© 2021 Macromill, Inc.

MACROMILL
a Macromill Group company

